

第8回 中国圏広域地方計画学識者等会議 議事要旨

■日時:令和7年6月4日(水) 14:00~15:30

■場所:中国地方整備局 建政部 3階 会議室 及び WEB

出席者:別紙のとおり

議 題

- 1) 新たな中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(素案)の修正案(検討状況)について
- 2) 今後のスケジュールについて

【配布資料】

- ・議事次第、出席者名簿、配席表
- ・資料1:学識者等会議委員からのご意見と対応
- ・資料2:多様な意見、取組の収集
- ・資料3:前回会議以降に検討が進んだ他の中長期計画を踏まえた計画の精査
- ・資料4:キャッチフレーズとロゴマークについて
- ・資料5:中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(素案)修正案(検討状況)
- ・資料6:次期広域地方計画の策定スケジュール
- ・参考資料1:学識者等会議 規約
- ・参考資料2:国土形成計画(全国計画)
- ・参考資料3:中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(素案)概要
- ・参考資料4:中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(素案)
- ・参考資料5:中国圏広域地方計画に関する広域連携プロジェクト検討状況

1. 開会

挨拶 (中国地方整備局 林局長)

- 中国圏広域地方計画は、中国圏のこれから 10 年間、その先を見通して、将来のビジョンを明確にする重要な計画である。
- 国土形成計画にかかわる最近の動きとしては、5月28日開催の国土審議会推進部会に設置されている専門委員会にて、地域生活圏のとりまとめの議論が進められており、6月中旬頃に国土審議会推進部会でとりまとめが報告予定となっている。
- 中国圏広域地方計画中間とりまとめについては、素案を令和6年12月23日に公表した。今年秋頃の中間とりまとめ(案)を公表するにあたり、今回は令和6年12月以降にいただいたご意見への対応、他の中長期計画の検討状況を踏まえた修正案について、ご意見をいただきたい。

渡邊座長 (福山市立大学大学院)

- 地域生活圏のとりまとめ報告案が公表された。地域生活圏を原単位とした生活サービスの「共助」の活動を推進する共創戦略のもとで、「ローカルマネジメント法人」が設立される。

- また今後、地方創生 2.0 基本構想案が有識者会議で議論される。この中で、関係人口を可視化する仕組みとしての「ふるさと住民登録制度」が創設される。我々は活躍人口の創出を打ち出しているが、国も同じ方向性だ。
- 今回は、今秋の中間とりまとめ（案）に向け、年末に議論した中間とりまとめ（素案）の修正案の検討状況について議論いただき、忌憚のない意見をいただきたい。

2. 議題

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- 「1）新たな中国圏広域地方計画 中間とりまとめ（素案）の修正案（検討状況）について」、事務局から資料説明後、各委員からご意見・ご感想をいただく。

1）新たな中国圏広域地方計画 中間とりまとめ（素案）の修正案（検討状況）について

事務局より説明。

齋藤委員（山口大学）

- 資料 5 にあるコラム等について、適切な差し込み位置を今後検討してほしい。
- 資料 5 「3. 観光振興による地域経済の活性化」にある「インバウンド回復」は、すでに回復しているのではないか。「観光立国推進基本計画」で示されている既定の戦略ではあるが、インバウンド回復前後の年代が分かるような記載にしてほしい。
- 地方創生 2.0 のふるさと住民登録制度の閣議決定後には、関係人口がおもてに出てくる。関係人口と二地域居住の定義の使い分けが重要で、関係人口との関係をもう少しはっきり書く必要がある。
- 「ローカルマネジメント法人」という言葉を中国圏広域地方計画に入れてほしい。このような支援組織が身近にある安心感が、今後地域にとって大事だと感じる。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

- よくなっていて感心した。
- 中国地方には中小企業を含めオンリーワンの企業がたくさんある。中国地方の今後の産業を考えると、海外に出ていくことは不可欠であり、海外に展開していくというような記述を厚めにしてほしい。
- 中国地方には、大学周辺のディープテックを中心に、次の大きな産業の可能性があるスタートアップがある。産学官連携の世界トップの研究をベースとしたスタートアップの育成について厚めに書いてほしい。

加納委員（中国新聞社）

- 活躍人口のコラムは面白い視点で書かれていると感じた。
- 地方創生 2.0 基本構想において「ふるさと住民」という言葉が出ている中で、活躍人口の位置づけの整理をしておく必要があるのではないか。

神田委員（呉工業高等専門学校）

- これまで議論してきた内容を入れていただいている。

- 本省の地域生活圏の議論で挙がっているローカルマネジメント法人について、官・産のような区切りを跨ぐことや、地域を越えて対応していく場面が出てくる。これまでの計画では、不足している労働力を担うこと、安く人を雇ってしまう方向に行きがちであったが、ローカルマネジメント法人によって機能補完、マネジメントを進めるコアになることを考えると、NPO やスタートアップ等のキーワードがもっと重いものになるのではないかな。
- それぞれの主体、立ち位置のかかわりの深さ、重さ、深みを表現して、一緒にマネジメントしていくというメッセージ性が強く出していけると良いのではないかな。

深井推進室長（中国地方整備局）

- コラム等の差し込み位置について、もう一度精査する。
- インバウンド回復という言葉について、計画策定作業に時間を要しているため、この言葉以外にも該当するものがないか整理する。
- 二地域居住や地域生活圏の議論に関連するローカルマネジメント法人について、本省の動きや制度的な動きを確認しながら引き続き検討を進める。
- 産業の海外展開について、中経連における大学と連携した取り組みがあると認識している。今後、プロジェクトの具体例を記載したいと考えているため、ご相談させていただきたい。
- 活躍人口やローカルマネジメント法人について、位置づけの整理や本文への組み込み方を引き続き検討を進める。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

- 資料5「4. 多様な関係人口の拡大・深化による活躍人口の創出」について、外国人をもう少しクローズアップすることで、地域で活躍する人が増えるのではないかな。外国人にも優しい環境づくりが大事であること、そういう表現を入れていただきたい。

大島委員（一般社団法人データクレイドル）

- 活躍人口の創出のため、ローカルマネジメント法人が、活躍している個々人やコアとなる企業等の組織をマッチングする拠点を作る等のマネジメントを行うということを伝え、人も組織も地域の中で活躍するイメージが伝わるのではないかな。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- 拠点はハード的な拠点だけでなく、マネジメントする人がうまくやることでソフト的な拠点ができる。ローカルマネジメント法人は重要なキーワードであり、中国地方に大事なコンセプトであるため、計画の中でよく考えていく必要がある。
- 資料2「多様な意見、取組の収集」で、これまでいろいろな方の意見をいただいております。今後は高校生の意見を聞くとのこと。2022 年4月から高等学校の新学習指導要領がスタートし、従来の総合学習が総合探求と名前が変わり、地域探求活動、地域課題の探求をする取組みを実施している。これらにより、地域の良さ、地域への愛着を持つようになったと聞いている。そのような観点も含めて、高校生の話を聞いてほしい。

森委員（島根大学）

- 前回の学識者等会議で、物流関係がなかなか整備されていない状況を述べたが、その意見に対する対応を明確にしていっている。
- 農業における担い手政策について、今の書きぶりでは大規模かつ効率的に規模拡大をしていくような企業の担い手を想定していると感じる。小規模農家や兼業農家等を積極的に支援していくような、農地の維持、農村地域の資源の維持管理などの多面的機能を重視する姿勢がどこかに書かれてあるといい。

深井推進室長（中国地方整備局）

- 外国人をクローズアップすることについて、より一層、地域の中で生活しやすくなるようなニュアンスを出せないか検討する。
- ローカルマネジメント法人については、施策の内容を見極めた上で記載ぶりを考えていきたい。
- 高校生の意見について、高校生が自分の将来と地域についてどう考えているのか、生の声を聞き取り、本文にコラム形式で追加できないか検討する。
- 一次産業は、産業としての観点以外に、国土管理の役割の記載ができているか改めて確認する。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- これまでの議論を踏まえ総括する。
 - ①地方創生 2.0 基本構想案の話で挙げた「ふるさと住民」は、活躍人口と密接な関係にあるため、位置づけについては国の動向を踏まえながら検討する必要がある。
 - ②地域生活圏の議論にあるローカルマネジメント法人が、スタートアップのプラットフォームやスモールビジネスの支えになっている。こうした法人の中核となるマネジメント人材は大事で、地域生活圏の4層構造における3層4層という比較的小さい圏域での活躍が期待でき、国土管理の観点でも重視されるのではないかと感じた。
 - ③外国人の話も重要。外国人が中国圏における活躍人口である事は間違い無い。中間とりまとめ（案）に向けて引き続き事務局で検討いただきたい。
- 続いて、「2）今後のスケジュールについて」ということで、事務局から資料説明をお願いしたい。

2）今後のスケジュールについて

事務局より説明。

事務局

- 本日いただいた意見を踏まえた修正については、座長と相談して進める。また、本日提案したキャッチフレーズ、ロゴマークについて、中間とりまとめ（案）に載せる事としたい。

3. 閉会

挨拶（中国運輸局 金子局長）

- 本日は長時間にわたり、さまざまなご意見をいただき感謝申し上げます。
- 今年度中に次期中国圏広域地方計画を策定するというところで、まずは秋に予定する中間とりまとめ

（案）公表に向け、本日のご意見を踏まえて今後さらに議論を深めていく。

○引き続き委員の皆様には、次期計画策定に向けご指導を賜るようお願いしたい。

以上